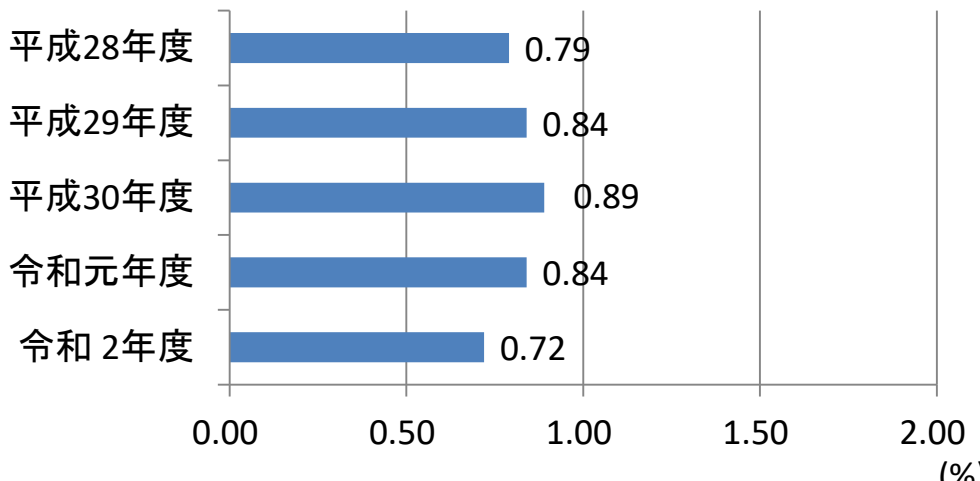


30 褥瘡発生率

解説	入院後に褥瘡(床ずれ)が新規発生することで、患者のQOL(生活の質)の低下をきたし、結果的に入院期間の長期化や医療費の増大を招きます。これは、適切な診療により予防できる疾患です。国立大学附属病院における褥瘡の発生率は低く、適切な取り組みが行われていることが示唆されます。知識の蓄積,予防の計画,予防の実施にかかる総合力を評価する指標です。												
実績	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>褥瘡発生率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>0.79</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>0.89</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>0.72</td> </tr> </tbody> </table>	年度	褥瘡発生率 (%)	平成28年度	0.79	平成29年度	0.84	平成30年度	0.89	令和元年度	0.84	令和2年度	0.72
年度	褥瘡発生率 (%)												
平成28年度	0.79												
平成29年度	0.84												
平成30年度	0.89												
令和元年度	0.84												
令和2年度	0.72												
定義	1年あたりの褥瘡発生率(入院してから新しく褥瘡が発症した患者数の比率)です。												